日本言語政策学会（JALP）第21回研究大会　転換点を迎えた日本の言語政策　プログラム

日時　2019年6月8日（土）～ 9日（日）
会場　関西学院大学
　　西宮上ヶ原キャンパスG号館
参加費　会員・大学院生1,000円
　　非会員2,000円、
　　学部生無料（予稿集別売）
　　（事前申し込みは必要ありません）
休憩＆交流スペース　（G号館308教室）
書籍展示　（8日G号館301教室前
　　9日G号館207教室）
大会本部　（G号館206教室）
講師控室　（G号館307教室）

※都合により発表プログラムは変更される場合があります。

第1日　6月8日（土）

12:30　受付開始　G号館2階ロビー

13:30～13:45　開会式　G号館301教室

開会の辞
山川和彦（日本言語政策学会会長・麗澤大学）
会場校あいさつ　小菅正伸（関西学院大学副学長）

13:45～14:45　基調講演　G号館301教室

グローバル社会における日本語教育―世界標準となるか日本の言語政策
伊東祐郎　（国際教養大学専門職大学院教授）

15:00～17:30 シンポジウム G号館301教室

転換点を迎えた日本の言語政策
○韓国における外国人労働者向けの現地語教育の現状と課題
春木育美（公益財団法人日韓文化交流基金事務局長）
○オーストラリアの成人移民英語プログラムについて
渡辺幸倫（相模女子大学学芸学部教授）
○ドイツにおける労働者受け入れとドイツ語教育
中川慎二（関西学院大学経済学部教授）
討論者　伊東祐郎(国際教養大学専門職大学院教授)
松岡洋子(岩手大学教育推進機構教授)
司会　上村 圭介(大東文化大学外国語学部教授)

18:00～20:00　懇親会　レストランポプラ

参加費：4,000円を予定

第2日　6月9日（日）

9:30　受付開始　G号館2階ロビー

10:00～11:30　一般研究発表

A会場201教室　司会：福島青史（早稲田大学）

A-1言語的にマイノリティーな生徒への支援の仕組みとその実践―日米における高校教室の実態を例に
王　一瓊（大阪大学・大学院生）

A-2難民申請者の言語環境に関する研究――在日クルド人の言語バイオグラフィーからの記述の試み――
片山奈緒美（筑波大学・大学院生）

A-3「国フェス」における言語の扱われ方―言語イメージへのインパクトの探究
猿橋順子（青山学院大学）

B会場202教室　司会：小田桐奈美（関西大学）

B-11970年代のイタリアにおける複言語教育の実践 ―言語学者トゥッリオ・デ・マウロの構想した言語教育とその狙い―
西島順子（京都大学・大学院生）

B-2アイルランドの言語教育政策におけるCEFRの受容
大山万容（立命館大学）

C-3多言語国家スイスにおける言語教育制度―1980年代の政策を中心に
藤井　碧

10:00～12:00 WiPセッション　203教室

W-1京都府八幡市における大学地域連携によるインバウンド対応プロジェクト
林舜哉、宮地泰生、前川祐輝、舛見駿、立原風花、山下瞳（龍谷大学・学部生）

W-2民主的シティズンシップ教育の実践
名嶋義直（琉球大学）

W-3よりよき市民性教育のために
神田靖子（大阪学院大学）

W-4Words That Wound（傷つける言葉）としての政治家のヘイトスピーチを考える――ARIC政治家レイシズムデータベースの意義について　梁英聖（一橋大学・大学院生）
大友佑真（青山学院大学・学部生）

11:30～12:30　ポスター発表　G号館208教室、209教室

P-1「外国人市民のための日本社会適応・定着プログラム」の開発のためのニーズ調査報告
深澤のぞみ（金沢大学）志村　恵（金沢大学）
阿部愛沙大（金沢大学・大学院生）

P-2移民先進国の『失敗と成功例』から日本の緊急課題を考える-包括的な移民政策の提言-
杉野俊子（浜松学院大学）杉谷眞佐子（関西大学）
山川智子（文教大学）中川康弘（中央大学）

P-3応募動機からみる日本語教師派遣事業の意義と役割―ロシア派遣を例に―　松井一美（早稲田大学）

P-4日本語学校非常勤講師の「おもしろさ」と労働条件の受容―インタビュー参加者の成員カテゴリー化の実践から
勝部三奈子（大阪大学・大学院生）

P-5ディアスポラにおける母語の学習とその意義：カザフスタン共和国在住タタール人の事例から
櫻間瑞希（筑波大学・大学院生）

P-6日本語支援教室で見られた子どもたちの複言語・複文化能力を探る―大阪府公立H小学校での実践より―
米澤千昌（大阪大学・大学院生）

P-7外国人集住地域に見る社会参加とリテラシー問題:公営団地の外国人住民の調査事例を中心に
高　民定（千葉大学）村岡英裕（千葉大学）
今千春（明海大学）鄒暁依（千葉大学）

P-8「学びと労働」の狭間で―日本語学校急増の背景
橋内 武（桃山学院大学）

13:00～13:30　総会　G号館301教室

13:30～15:00　一般研究発表

C会場201教室　司会：飯野公一（早稲田大学）

C-1多文化共生社会における行政主催の地域初期日本語教室の試案
千葉月香（名古屋大学）
伊藤クリスティーナ（合同会社Bri Asia）

C-2日本語非母語話者による「やさしい日本語」貢献の可能性
延与由美子（北海道大学）

C-3学校教育における日本語教育と指導者資格に関する一考察
奥村久美子（厦門大学）

D会場202教室　司会：サウクエン・ファン（神田外語大学）

D-1The Study on the Help for Using Jejueo in Public Sector: Jejueo Learning Environment to Domestic & Foreign Immigrants and Multicultural Families
Kim Mi Hyong, Kim Won Bo（Jeju National University, Korea）

D-2中国朝鮮族の言語選択と言語管理－延辺出身の大学生のインタビューを通して―
崔　英才（淮陰師範学院）

D-3中国の小中高教育における言語教育観―小中高段階の言語学習指導要領を中心に―
喬 天源（京都大学・大学院生）

E会場203教室　司会：ましこひでのり（中京大学）

E-1日本の社会言語学研究における「多言語主義」の受容
貞包和寛（東京外国語大学）

E-2「音声日本語」と「手話言語」のバイリンガルな視点から見る日本社会の単一言語思想―手話言語法制定を前にして―　丸田健太郎（広島大学・大学院生）
中井好男（同志社大学）

E-3国際企業の言語政策―ELF研究の視点からみた社内英語公用語化
氏家（小澤）佐江子（SBFコンサルティング・国士舘大学）

15:15～17:15 パネル発表

パネル1　G号館201教室

S-1外国人受入れに向けた学校、企業、公共サービスの課題―国内外の受入れ側の研修プログラムを通して考える―
○趣旨説明　岡本能里子（東京国際大学）
○ドイツにおける「第2言語としてのドイツ語」教員養成・研修　平高史也（慶應義塾大学）
○ニュージーランドの職場における人材育成の一例―職場談話研究プロジェクトによる実践　村田和代（龍谷大学）
○「やさしい日本語」による文章作成のための職員研修―公用文が抱える構造的な問題　岩田一成（聖心女子大学）

パネル2　G号館202教室

S-2多文化共生時代の地方自治体の多言語対応のあり方を考える―東京2020大会とその後を見据えて―
○趣旨説明　臼山利信（筑波大学）
○言語政策と日本社会の多言語対応－「共生計画diversity planning」という理論的枠組みの提案－
臼山利信（筑波大学）
○神戸市の多言語対応の現状と課題について
植松賢治（神戸市）
○Webサイトの多言語自動翻訳サービスと防災用途自動翻訳＋音声合成システム　菊地　茂（株式会社　高電社）
○観光地の言語コミュニケーション－北海道ニセコ観光圏を事例として－　山川和彦（麗澤大学）

パネル3　G号館203教室

S-3高等学校における多様な外国語教育の実現に向けて
－JACTFL・JALPの協働の可能性－
○趣旨説明　境一三（慶應義塾大学）
山下誠（神奈川県立岸根高等学校）
○グルーバル化に対応した外国語教育推進事業―その実現までの経緯と今後の課題　山下誠（神奈川県立岸根高等学校）
○外国語教育における英語プラス１を目指して―JALP「多言語教育推進研究会」再考　上村圭介（大東文化大学）
○英語以外の外国語教育を対象とした推進事業－これまでの事業を振り返る－　武井由紀（名古屋外国語大学）
○「グローバル化に対応した外国語教育推進事業」―参加の意義と展望　寺尾美登里（大阪府立松原高等学校・関西学院大学他）

背景：写真AC https://www.photo-ac.com/profile/810857